

2016 度 小委員会活動成果報告

(2017 年 1 月 5 日作成)

小委員会名	観光と地域プランニング小委員会	主 査 名：川原 晋 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画本委員会	委員長名：有賀隆 主 査 名：
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p><設置目的></p> <p>1) 都市計画・まちづくりの発想、そこで培ってきた手法・計画技術を、地域を舞台に取り組み様々な観光の取り組みに根付かせる方法研究、アウトリーチ活動。</p> <p>2) 一方で、観光が重要な産業であり、また、シビックプライドを醸成する重要な方法であるとの認識の元、都市計画・まちづくりの政策、制度、方法論として、観光手法を取り込むための研究。</p> <p>3) こうした取り組みを持続的に進めていくための、観光と都市計画／まちづくりの関係を理解する人材の輩出のための教育ツールや方法、輩出した人材の活躍の場、働く場を開拓という出口戦略の研究。</p> <p><2016 年度活動計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光と地域プランニングに資する公開講座の開催 ○大会研究集会でのコラボレーション等 ○政策・制度の提言 ○観光と地域プランニングの教育に資する教材としての出版企画の執筆 	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有り</p> <p>川原 晋 (首都大学東京)、姫野 由香 (大分大)、海津 ゆりえ (文教大)、内海 麻利 (駒澤大)、伊藤 弘 (筑波大)、泉 英明 (ハートビートプラン)、佐野 浩祥 (金沢星稜大)、岡村 祐 (首都大学東京)、永瀬 節治 (和歌山大)、泉山 墨威 (明治大)、永野 聡 (三重大)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2015 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：あり 委員会 HP アドレス： http://tourism-and-regional-planning.com

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	<p>下記のとおり 6 回開催した (予定を含む)。前半は 8 月の大会での研究懇談会の企画について、後半は 4 年間の小委員会活動のとりまとめ (刊行図書 of 企画等) について議論した。</p> <p>5/21 (建築会館)、5/31 (建築会館)、7/24 (建築会館)、8/24 (学会大会期間中@福岡大学)、10/8 (建築会館)、3 月中予定 (建築会館予定)</p>
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	<p>研究懇談会の開催</p> <p>「観光地域は都市計画・まちづくりに何を期待するのか？」</p> <p>同 資料作成</p>
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p><活動の概要></p> <p>小委員会の最終年度にあたる 2016 年度は、研究成果のとりまとめや発信に注力し、福岡大学で開催された大会において研究懇談会を主催した（8 月 26 日）。また、本小委員会の将来展望について議論し、次期科研費の研究課題の検討及び申請や、新たに観光を主題とする建築学会小委員会の設置に向けて応募し、採択された。</p> <p>①研究成果のとりまとめに向けてのテーマの検討</p> <p>本小委員会のこれまでの 3 年間の議論を踏まえて、観光まちづくりの政策から現場までの計画技術の総合化を目指し、産業としての観光を意識し地域の総合力で取り組む「地域観光」を推進する枠組みとしての「地域観光プランニング」という考え方を訴えていく必要があるとの結論に至った。</p> <p>これは、刊行予定の図書における中心的テーマとなるものであり、下記の研究懇談会の資料集に寄稿した論考をベースに、各委員の執筆内容を確定させた。</p> <p>②学会大会での研究懇談会の主催</p> <p>上記のテーマ設定を踏まえて、学会大会（福岡大学）において、研究懇談会「観光地域は都市計画・まちづくりに何を期待するのか？」を主催した。また、資料集（全 84 頁）も作成し、小委員会メンバー以外から 10 編の寄稿を得て、建築学会における本テーマへの関心の高さを確認することができた。</p> <p>研究懇談会では、観光地域計画の最前線で当該問題に取り組んでいる公益財団法人日本交通公社の梅川智也氏を招聘し、小委員会メンバー（川原、姫野、泉、海津、内海、伊藤（司会））も交えて、リーダー論や組織、事業、公民連携のあり方等、地域で観光を動かす際の課題や現場の声等が議論された。</p> <p>③オーガナイズドセッションの主催</p> <p>学会大会（福岡大学）において、オーガナイズドセッション（テーマ：次世代の観光まちづくりにむけて）を企画し、計 9 編（うち 6 編は小委員会メンバー以外の論考）の発表があった。</p> <p>④本小委員会の将来展望に関する議論</p> <p>本小委員会で打ち立てた「地域観光プランニング」の理論や技術を発展的に議論していくために、「観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術「地域観光プランニング」の詳細化と実装化」と題した研究課題で、次期科研費に応募した（代表：川原晋）。また、建築学会都市計画委員会内で継続的に議論する場を設けていくために、新たに小委員会設置に向けて応募し、選考の結果、「地域観光プランニング小委員会」（主査：川原晋）が採択された（2 年間）。</p> <p><2016 年度活動計画の実現状況></p> <p>○観光と地域プランニングに資する公開講座の開催／○大会研究集会でのコラボレーション等</p> <p>小委員会メンバーが企画し、本小委員会テーマとも関係の深い内容のシンポジウム（「オープンシティ・シンポジウム」11/2、11/4 開催）に関して、本委員会の共催もしくは後援という形を取る予定であったが、学会規定により実現しなかった。ただし、小委員会メンバー有志が参加し、地域資源を一斉公開し、まちづくりや観光につなげていくプログラム（オープンシティ・プログラム）に関して議論を交わした。</p> <p>○政策・制度の提言</p> <p>上述の刊行図書のなかで、行っていく予定である。</p> <p>○観光と地域プランニングの教育に資する教材としての出版企画の執筆</p> <p>上述の刊行図書の原稿を年度内に取りまとめる予定である。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>観光地域の計画づくりや実践に、経済や経営の立場から関わっている専門家や実務家との議論が必要である。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。